

# 木彫による造形研究 2023

## クロッキー&ドローイング

岩井 義尚 *IWAI Yoshinao*

(美術領域)

作品の形の素は、「自然のモノをデッサンしていると、その源は球体、それも機械的な球体ではなく、心地良い球体の単体又は複合体である」と考える。私の創作は、この考えを基に「視覚に訴えかけるのに重要である水平要素・垂直要素そのものが創り出す空間」を使い構成している。



Form 2401

第46回 中部二元展 2024年2月27日～3月3日  
愛知県美術館 8F ギャラリー (A・B室) (名古屋市)

テーマ；「動き」「流れ」「生」「種」

立体作品における制作は、テーマからイメージし、形の根源を動物(人も含む)・植物・自然現象から創作要素を探り、構成を考慮し、素材(木)を彫ることにより形(Form)を創り出す手法で具現化した単体又は集合体で表現している。

平面作品は、ペンで描く多くのフリーハンドの線の重ねにより、人物を構成し、立体作品に影響するエスキースの要素を含むドローイングと人体クロッキー(各種描画素材)にて、テーマを表現する研究をしている。



**Form 2304**

樟（クス）+A.B.W.+  
樺（ケヤキ）  
H52×W32×D27(cm)

A.B.W.=アメリカン  
ブラックウォール  
ナット

この「Form 2304」は、4ページ目下段左のドローイングを素に、一木（樟）から彫り出した下部と部分（要素）の複合体による「動」と「生」を意識した表現で制作した。「Form 2401」のマケットとして制作。

発表；「中部二元会研究展 2023」へ出品  
（愛知県立美術館 8F ギャラリー J2 室）2023.11.14~11.19



**Form 2303**

樟（クス）+櫛（タモ）+真鍮棒  
H37×W48×D36（cm）

「地からの誕生シリーズ」の7番目の「Form 2303」は、他のシリーズ作品と同様に積み重なった異なる要素の複合体である母体（一木造り）より発生した球状体により、特別な存在の「種」を表現した。



発表；第46回中部二元展へ出品  
（愛知県立美術館 8F ギャラリー A・B 室）2024.2.27~3.03



### Form 2401

樟 (クス)  
H116×W56×D56 (cm)

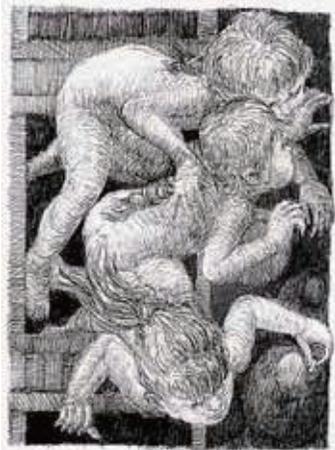
「Form 2304」を基にし、変化させたアイデアでサイズアップしたのが「Form 2401」である。

下部は「Form 2304」と同様に、一木(樟)から彫り出した形作り、上部は三つの部材を組んだ複合体で、「動」と「生」を意識して、特に「動き」を表現した。

発表；第46回中部二元展へ出品  
(愛知県立美術館8FギャラリーA・B室) 2024.2.27~3.03

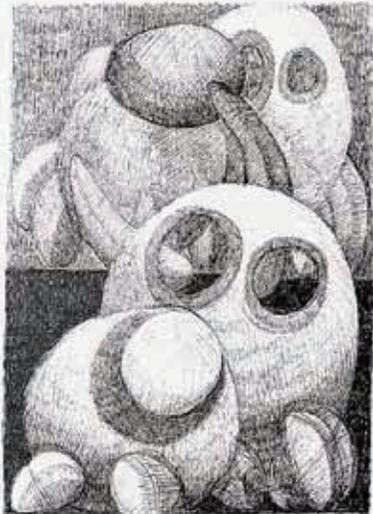
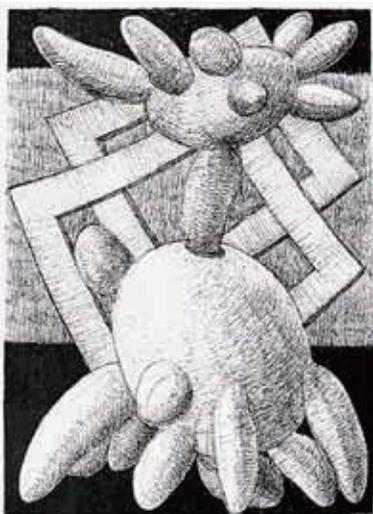
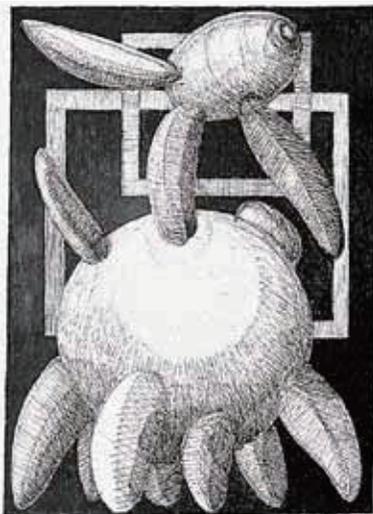


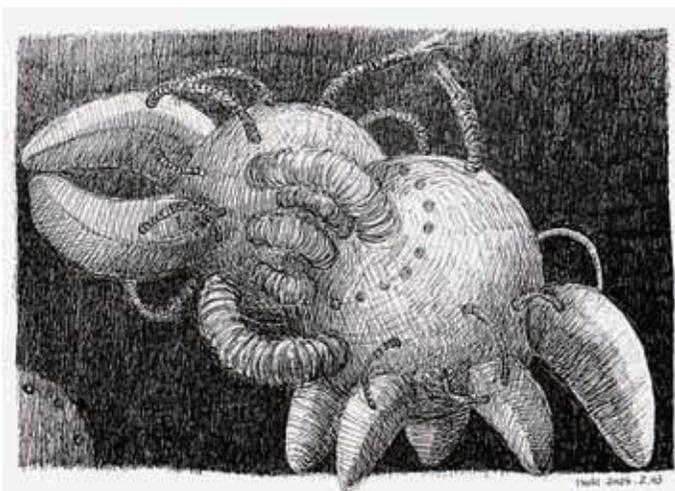
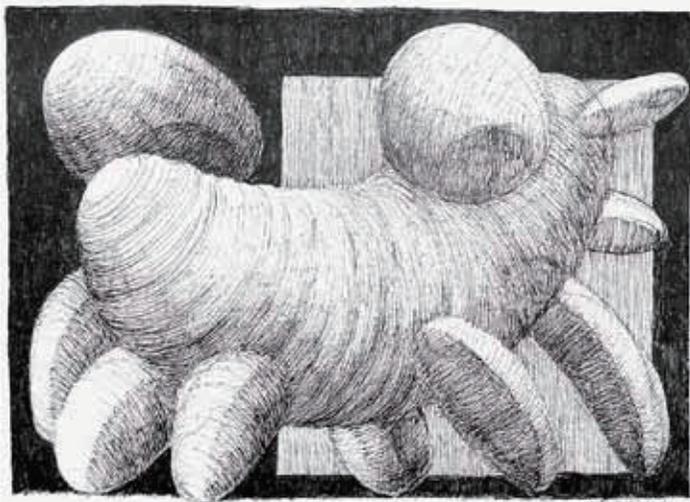
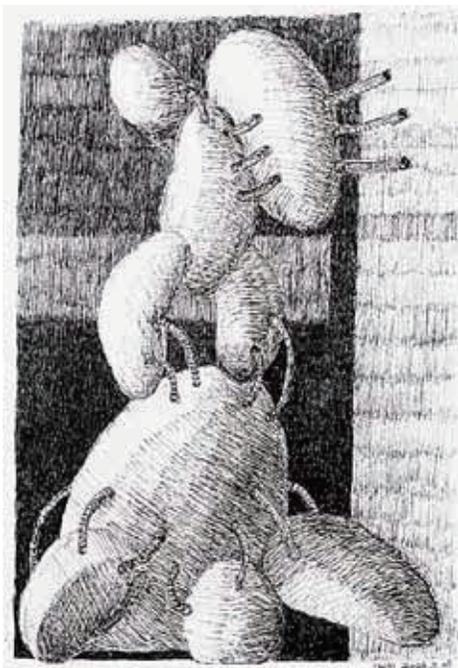
木彫による具象作品へと繋がる人物ドローイング



クロッキー会「Art of 20 歩」作品展へ賛助出品

名古屋芸術大学アーツクエア(北名古屋市文化勤労会館展示室) 2023.12.10 ~ 12.16





個人研究「木彫による造形研究」の立体やレリーフ作品の為のアイデアスケッチ（完成予想図）と位置付けている。  
木彫による抽象作品へと繋がるドローイング

ミニドローイング・・・2024年2月から小さな額のためのドローイング（ペン画に色鉛筆で彩色）





### クロッキー

人体表現、抽象表現及び空間表現に繋がるモノが「クロッキー」と考える。人体の流れと繋がりを研究する為に、最近では和紙を用い、筆ペンを描画材として描いている。

和紙に筆ペン（顔料色筆ペン）は相性が良く、「大胆な線」「繊細な線」を併せて描ける良さを持っている。紙面に数ポーズ（同一モデル）を重ねて、空間場面構成を瞬時にやりながら描く方法で行っている。

「Art of 20 歩」作品展へ賛助出品  
名古屋芸術大学アーツスクエア  
（北名古屋市文化勤労会館）  
2023.12.10～12.16



「中部二元会研究展 2023」へ出品  
（愛知県立美術館 8F ギャラリー J2 室） 2023.11.14～11.19